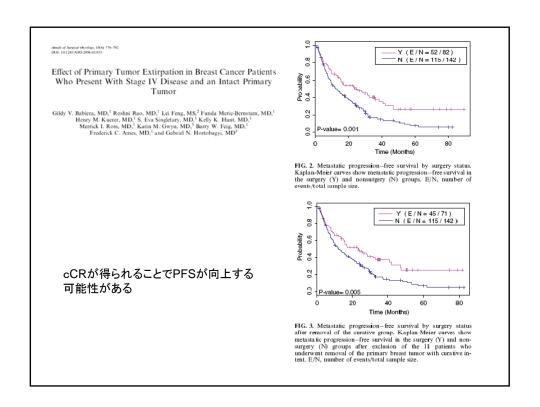
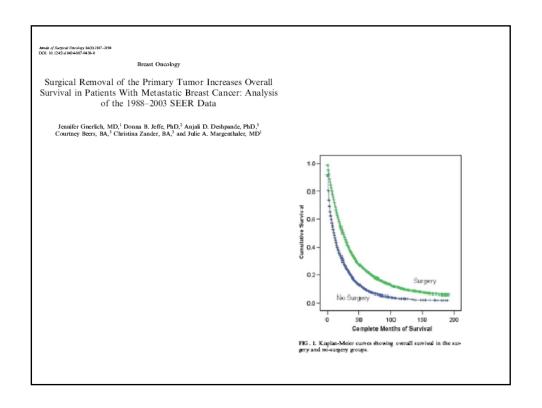
症例1 B 原発巣を切除後全身治療を継続 Bチーム

はじめに

- StageIVに対する原発巣切除は、ガイドライン上は勧められていない。(グレードC)
- しかし、外科切除の適応が見直される傾向にある。

5th Tokai-Hokuriku Breast Cancer Meeting for Young Investigators Program 2009.3.7-8





治療方針

- 3か月の全身療法により、原発巣以外はcCR が得られている。
- 手術によりcCRを得られれば、症例によってはPFSの向上が期待される。
- ⇒cCRを得るために原発巣切除を施行する。
- 化学療法のみでcCRを得ることは困難であり、 タイミングを逃すと切除不可能になる危険性 もある。

- PACは約720mg/m2を超えると末梢神経障害を発症する可能性が高くなる。約9クールの投薬で発症することになり、QOLが低下する。
- 術後PACを休薬し、Herceptin単剤へ切り替える。
- ⇒QOLの向上する可能性がある。

結語

- ガイドラインをはじめとしたEBMによると、原発巣切除は生命予後に影響を及ぼさないが、 症例によっては生存率が向上するという報告 もある。実臨床上ではQOL向上のために、個別の症例に応じた治療が必要である。
- 本症例では原発巣切除し、PACを休薬、 Herceptinを継続する治療を選択する。